世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報　2015.4.5　№.225　連絡先 FAX　042-555-1911

延べ200名のパラシュート訓練　3月30日～4月2日を通告　今年3度目

知らせがあったのは 3 月 27 日（金）の夕方。1 月は 5 日間で 150 名の予定でしたが、今回は 4 日間で 200 名。どこの部隊が訓練するのか不明。訓練時間も 6 時から 22 時の間、住民が監視行動するのを嫌っています。30 日は、7 名の人員降下と箱 4 個の投下が目撃され、4 月 2 日は、6 名が 2 回、7 名が 1 回、8 名が 1 回、他の目撃情報もありました。

辺野古移設作業、停止を指示＝岩礁破砕許可取り消しも－翁長沖縄知事

沖縄県の翁長雄志知事は 23 日、県庁で記者会見し、防衛省沖縄防衛局に対し、名護市辺野古での一連の海上作業を停止するよう指示したことを明らかにしました。その上で、政府側が応じなければ「岩礁破砕許可を取り消すこともある」と述べました。防衛省は許可取り消しに不服申し立て、農林水産省は許可取り消しを認めない採決を下す。おかしいです。主権者である沖縄県民の民意が全く無視されています。（写真：沖縄統一連）

米統合参謀本部デンプシー議長　要人輸送機C-32Aで　横田基地に

デンプシー議長が乗ってきたとみられる米空軍の要人輸送機 C-32A（98-0002）が 3 月 24 日 9 時過ぎに横田基地に着陸し、26 日 10 時半頃、離陸しました。

C-32 は主に米合衆国副大統領の搭乗機（エアフォースツー）としてのほか、ファーストレディや大統領顧問団、議会関係者の輸送にも用いられます。3 月 22 日 17 時頃には、東南アジアから本国に帰るファーストレディーを乗せていると思われる C-32A（98-0001）が着陸しました。

安倍首相「在日米軍再編は予定通りに」　米参謀議長と会談

安倍晋三首相は 3 月 25 日、米軍制服組トップのデンプシー統合参謀本部議長と首相官邸で会談し、名護市辺野古への「移設」について**「移設をはじめとする在日米軍再編について、予定通りに作業を進めていく」**と述べました。沖縄県の翁長雄志知事は沖縄防衛局に移設作業の停止を指示しましたが、これに応じず事業を推進する意向を明示しました。

デンプシー氏はこれに先立ち、中谷元（げん）防衛相と会談。**中谷氏は「（辺野古への）移設作業は着実に進める方針にいささかも揺るぎはない」**と述べ、**デンプシー氏も「大変重要な事業であり、取り組みに感謝したい」と支持**しました。デンプシー氏は自衛隊トップの河野克俊統合幕僚長との相互訪問の一環で訪日。河野氏とも会談し「戦後 70 年の節目の年が、力強い日米関係を象徴する歴史的な年になる」との認識で一致したそうです。

殺し殺される戦争はいや！「戦争立法」ストップさせよう！ （№.225 の裏面）

安倍内閣が狙う､集団的自衛権行使容認の「閣議決定」の具体化の法案、5 月中旬にも国会に提出され、会期を延長してでも成立させようとしています。安倍首相の「我が軍」発言がありましたが、「自衛隊は軍隊として海外に出る．海外で戦争をする」ことができる内容で、「陸海空軍その他の戦力は保持しない．国の交戦権は認めない」という憲法 9 条に違反します。

戦争反対！安倍内閣の暴走にストップを！（写真：コープ・ノース 15（グアム、アンダーセン基地の訓練センターで敵軍をやっつける訓練をしている。2015 年 2 月。米空軍 HP）

米軍横田基地　今年は年間の訓練計画を提供していない　秘密ですか？

米軍横田基地では、これまで年間の主な訓練計画について年の始めに周辺の自治体に伝えてきましたが、ことし 1 月、横田防衛事務所を通じて**「計画には変更があるため、不確かな情報にならないよう情報提供の方法について検討する」**と連絡があったということです。その後、**新たな提供方法についての連絡はなく、今もどんな訓練が計画されているのかわかりません。**

基地周辺の自治体では、住民に情報提供する必要があるため、早めに訓練の計画を伝えて欲しいとしています。一方、横田基地はＮＨＫの取材に対し**「必要な運用と訓練を行う上で、地域の方々の懸念を考慮し**、双方の均衡を保てるようより尽力してまいります」とコメントしています。また、北関東防衛局では「アメリカ軍から情報が提供されれば、速やかに周辺自治体に伝えたい」と話しています。**米軍は「必要な運用と訓練」を住民に知らせない､ということ？**

阿波根昌鴻（あはごんしょうこう）さんのふるさと 伊江島　今・昔（中）

阿波根昌鴻さんは、1903 年 3 月 3 日、沖縄県で生まれました。1934 年、10 年間のキューバやペルーの移民時代に社会科学を学び、帰国後学んだデンマーク式農民学校の建設を伊江島で取りかかります。少しづつ島の北側の荒れ地を買い求め、自分で開墾し植林もして、10 年間で 4 万坪の土地に、立派な学校を 80 ％完成させていました。

1945 年 4 月島中が激戦地になり、農業学校も廃墟にされ、長男は兵役年齢に達していなかったのに現地徴収され戦死。1955 年 3 月、やっと平和が戻ったと思って農民学校の建設を順調に進めていたとき、米軍が銃剣とブルドーザーで阿波根さんの住居も農民学校もすべて破壊され､すべての土地を強奪されてしまったのです。このとき米軍は伊江島の面積の 3 分の 2 を基地建設予定地として接収しました。以来、住民は粘り強い非暴力の抵抗運動を開始したのです。陳情規定を作り、米軍の人間的な行いをたくさんの看板や、街頭演説で告発し、アメリカ民政府前での長期の座り込み、ハンスト、学習、そして「乞食行進」を行って、土地闘争を沖縄全体の島ぐるみ闘争に発展させることにも力を尽くしました。その中心に､阿波根さんがいました。

1966 年 7 月、米軍がベトナムとの戦争のために伊江島に設置しようとしたミサイル基地建設を、住民約 600 名が 4 日間、ミサイルの前に座り込んで阻止しました。この闘いから､国を超えたベトナムの民衆との連帯を意識して運動を続けるようになります。(「命こそ宝」カレンダーより)